

教科等の専門性を高める研究活動の実施

～研究授業・研究協議会・講演会等による教材・指導法の研究と開発～

I 本研究会（都国研）の概要

本研究会は東京都内の公立私立の高等学校・中等教育学校・高等学校附属中学校の国語科教員及び国語科教育関係者のための研究団体である。全国の国語教育研究会の中でも主要な役割を果たしており、60年以上にわたって日本の国語教育に関わってきた。

国語科の特質を踏まえて現状の課題に向き合いながら、これからの時代に必要な国語の力を育成するための教材や指導方法の研究及び国語科教員の研修を行っている。

II 研究の目的

学習指導要領の改訂では、各科目の内容と取扱いに大きな変更があった。特に国語科においては大きな改編が行われたため、各校の国語科の教員は様々なところで情報収集をし、試行錯誤を続けながら指導計画の作成に取り組んでいるところである。

そこで本研究会では対面での研究授業・研究協議会を継続的に実施することにより学習指導要領に基づく実際の授業・評価について検討し、教科等の専門性を高めるために有意義な機会の提供を行うことを主な目的とした。

III 研究の方法（講演会）

5月17日（土）総会での講演会

①「明石の君の歌の力 — 『源氏物語』の引歌表現— 」

講師 塚原 明弘 氏

（國學院大学兼任講師）

②「教室と文学をつなぐ」

講師 吉原 洋一 氏

（日本近代文学館）

III 研究の方法（研究集会）

【夏季研究集会】

7月22日（火）

会場 都立小金井北高等学校

内容 「文学国語」とジェンダー意識

講師 慶応義塾大学文学部

国文学専攻

教授 小平 麻衣子 氏

【冬季研究集会】

12月20日（土）

会場 都立大崎高等学校

内容 文学理論と文学教育の理想的な関係をめぐって
—「羅生門」などを事例として—

講師 東京学芸大学

教授 疋田 雅昭 氏

Ⅲ 研究の方法（研究授業）

【研究授業①】

6月18日（水）

会 場 都立国立高等学校

科目名 言語文化（高校1年）

単元名 説話を小説にリライトする ―生成AIを活用した実践―

授業者 都立国立高等学校 教諭 市川 祐人

【研究授業②】

9月30日（火）

会 場 都立白鷗高等学校附属中学校

科目名 国語B（中学国語1）

単元名 ことばのきまり

授業者 都立白鷗高等学校・附属中学校 主任教諭 廣瀬 愛

【研究授業③】

11月20日（木）

会 場 都立三田高等学校

科目名 古典探究（高校2年）

単元名 史記「四面楚歌」

―登場人物の言動に表れたものの見方・考え方を捉え、
評価しよう―

授業者 都立三田高等学校 教諭 山本 紗暉

Ⅳ 研究の成果と課題

本研究会はこれまで、国語科教員及び国語科教育関係者の研究と実践の場所づくりに取り組んできた。今年度も、講演会や研究集会では、専門分野の第一線で活躍する講師の方々から最新の研究課題についての貴重なお話を伺い、新たな知見を獲得することができた。また研究授業では、定番教材の取扱いはもちろんのこと、生成AIの活用や中学校での授業実践などについても取り上げることができた。研究協議の場では、様々な視点からの意見が出されて議論が深まり、研究と実践の裾野が広がったと言える。

一方、多様なデジタル教材やツールの有効活用、生徒に対する情報統合力の指導、そして評価の可視化については、今後も継続的に検討・検証を進めていく必要がある。研究会での学びがその場限りになることなく、参加者が自校での実践に生かすとともに、研究協議の場で疑問や課題に感じたことを各学校で議論していけるように啓発しながら、今後も研究活動を推進していきたい。

＜令和7年度連絡先＞

団体名		東京都高等学校国語教育研究会	
代表者	所属	都立杉並高等学校	
	職 氏名	校長 松田 晴美	
	連絡先	03-3391-6530	
事務局	所属	都立国分寺高等学校	
	職 氏名	副校長 松原 志保	
	連絡先	042-323-3371	
団体ホームページ	URL	http://www.kokugo.gr.jp/to-kokugo-kenkyu.html	二次元コード
			